

## IX まとめと今後の課題

児童の「生きる力」をはぐくむためには、日常生活の中で起こる様々な課題に対して、自分が身に付けてきた知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、解決していく力を身に付けることが必要である。また、それらの課題に対して、諦めず、意欲をもって取り組んでいこうとする態度を身に付けることが大切である。

そこで、今年度は、自力解決の場面や交流の場面で言葉や式、図などを活用することのよさにより多くの児童が気付き、積極的に活用することで、自分の考えをもち、それをわかりやすく表現する力を身に付けた児童を育成したいと考え、実践を行ってきた。その結果、次のような成果と課題が出された。

### 1 成果

#### 【仮説1について】

- ・言葉の式、図などを用いながら、解き方を考えるよう指導してきたことで、ほとんどの児童が自分の考えを書けるようになった。

#### 【仮説2について】

- ・言葉や式、図などを使って説明する方法を指導してきたことで、自分や友達の考えをわかりやすく説明できる児童が増えてきた。特に、「数と計算」領域に関する学習において、顕著な成果が見られた。
- ・ペアやグループ学習など少人数の場で発表する機会を取り入れた結果、得意な児童の説明を聞くことで、苦手な児童も、解き方が分かり、説明する技能の向上につながってきている。

#### 【CRT学力テスト結果について】

- ・全観点評定では、全国比は、103～114と、全学年とも全国平均を上回ることができた。要素別得点率で見ても、5つの学年で、「②思考・判断・表現」において全国平均を超えた。また、領域別で見ると、「I数と計算」は、すべての学年で全国平均を上回った。図形に関する設問でも、全学年とも全国平均を上回る正答率を得ることができた。

### 2 課題

#### 【仮説3について】

- ・本時の課題を意識した視点を与えて、相違点や共通点について話し合う機会が少なく、それらについて説明できるのは一部の児童に限られた。今後、比較検討の場面において、どのように考え話し合っていけばよいのかについて、児童の発達段階に合わせて指導していく必要がある。
- ・つかむ過程において本時の課題をしっかりと把握させ、それを意識しながら、学習に取り組みさせたことで、本時のまとめをノートに書くことができるようになってきた。しかし、的を射たまとめが書ける児童は限られている。比較検討した結果を一般化していく方法を指導していく必要がある。そのためにも、教師一人一人が、教材研究を深め、その日の学習で児童に何を学ばせたいのか（ゴール）を明確にし、そのための手だてを考えて、授業に臨む必要がある。

#### 【児童の意識に関して】

- ・言葉や式、図などを使って問題を解いたり、自分や友達の考えを説明したりしようと考えている児童が増加したのは3つの学年で、うち1つの学年は100%に達した。しかし、逆に激減した学年もあった。その理由は、「図や数直線を書かなくても解けるから」「図や数直線を書くことが苦手だから」「図や数直線を書いても分からないから」だった。図などを活用する必要性を児童が感じるような難しい問題（例えば学力・学習状況調査の過去問など）にも取り組ませる必要がある。また、図などの活用法や作り方を、学校全体での共通理解のもと、系統立てて指導していく必要がある。